



# 高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル7F  
 TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006  
 URL : <http://www.hokkaido-koupren.com/>

## 今号の内容

- ▶シリーズ北の志
  - ・小樽水産高校
- ▶支部だより
  - 十勝支部・旭川支部
- ▶高校生と語るつどい
- ▶第64回全国高P連大会
- ▶北海道高等学校安全互助会



**海洋国の未来を担う  
若者にエールを!!**



北のスペシャリストを育成する

北海道小樽水産高等学校教頭 亀山喜明



1  
沿  
革

本校は、明治38年に北海道庁立水産学校として創立され、「漁労」、「製造」「養殖」の3分科が設置されました。昭和25年には北海道小樽水産高等学校と改称され、漁業科、水産製造科、水産増殖科の3学科が設置され、その後幾多の変遷を経て、現在は海洋漁業科、水产食品科、栽培漁業科、情報通信科の4学科が設置されています。本年で創立109年目を迎える歴史と伝統のある学校です。

2 主な学習内容

(1 海洋漁業科)

漁業や船舶の運航、潜水や海洋の利用などについて学びます。2年生からコース別に分かれ、海洋コースでは潜水実習や海洋スポーツ実習などを行い、現在は18日間の乗船実習があり、沖縄で潜水実習を行っています。一方、漁業コースでは沿岸漁業実習や49日間のマグロ延縄長期乗船実習のほか、海外での国際交流活動などを行っています。これまでハワイ周辺海域で漁獲されたマグロは清水港（静

岡県)で水揚げされていましたが、今年度は小樽港で水揚げされる予定です。

(2) 水産食品科

水産物を中心とした食品の製造、管理、流通に

度は新たに札幌丸井今井  
穂祭など地域と連携した  
取組として実施し、今年  
は販売実習などを行つて  
います。販売実習は小樽  
マリンフェスタや後志收  
や食品科学実験、校外で  
の販売実習などを行つて  
います。販売実習は小樽



(4) 情報通信科

無線通信や有線通信及び電気工事に関する基礎的な知識・技術を学ぶほか、パソコン検定や情報通信技術検定を通してパソコンの基本操作・応用技術について学びます。2年生では選択科目を設定し、進路希望にあつた資格取得を目指します。道内唯一の教育用海岸無線局が設置してあり、北海道教育

産やプランクトン培養について学びます。また、古平町に栽培漁業実習場があり、宿泊実習を行うほか、地域の小学校等と連携し、施設見学やサケの稚魚放流などを実施しています。3年生では一級船舶操縦士コースと栽培漁業コースの選択制を導入しています。

(1) 三  
PTA行事

平成15年度から毎年実施してい  
る学校開放講座は、4つの学年

序の実習船と通信実習を行い、即戦力を養っています。



(2) 大型実習船による体験航海

(2) 大型実習船による体験航海  
生徒の実習のため、大型実習船が小樽港に入港した際、PTAを対象とした体験航海を実施しています。船内では施設見学のほか、避難訓練やロープワーク体験なども実施しています。今年度は高P連の全道大会と重なってしまったこともあり、午後2時間ほどの航海でしたが、これまででも昼食をはさんでの5時間にも及ぶ体験航海を実施するなど、例年好評です。



# 校生と語るつどい



**函館西  
高等学校**

8月8日(金)～9日(土)  
1泊2日の日程で、道立青少年体験活動支援施設ネイパル森を会場に、北海道高等学校PTA連合会道南支部「高校生と語るつどい」を開催いたしました。当日は道南支部加盟校から生徒、保護者、教員、道高P連本部役員を含め、48名の参加者が寝食をともにし、講演・分科会・体験活動・レクレーション・発表会に取り組みました。

テーマは「いのちのおはなしをつくろう」～小さな子どもたちに伝わる言葉～です。「いのち」について考え、語り合い、最後に「小さな子どもたちに伝わる言葉」で絵本や紙芝居を作り発表するという内容

で、いのちについての痛ましい報道が多い昨今、今まで語るべきテーマで実施されました。

講師は絵本作家の「あまさか ゆう」様を迎えて、いのちについてのお話をいたしました。あまさか様はご自身の子育てのご経験から、絵本作家として今日活躍されている方です。作品の中には平成18年度北海道「伝えたい北海道の物語」コンテスト優秀賞受賞の『実行寺の小坊主』「とつなをつくろう」～小さな子どもたちに伝わる言葉～で絵本や紙芝居を作り発表するという内容

で、いのちについての痛ましい想いが語られていました。

その後の分科会Ⅰでは、参加者が4～6人のグループに分かれ、当番校のPTAや生徒の司会進行のもと、自己紹介で交流を深め、ひとりひとりが「いのち」についての思いを語り合いました。「産んでくれた母への気持ち」「生きるために、他のいのちをもつてることへの感謝を忘れてはいけない」「生きること、出会うこと、ひとつひとつが奇跡」「子が生まれた時の感動」など、生徒や保護者、教員の垣根を超えた熱い語りをグループの皆さんに合わせ、即興でBGMを演奏してくださいました。参加者は緊張の中、講師より受け止めている姿が大変印象的でした。

閉会式では、道高P連石狩支部長の下山春美様からご挨拶をいただき、2日間の「高校生と語るつどい」の全日程を終了いたしました。

**テーマ**  
**いのちのおはなしをつくろう**  
**～小さな子どもたちに伝わる言葉で～**



科会Ⅱでは、講演や分科会Ⅰでの語り合いから、参加者一人一人が感じた「いのちのおはなし」についての作品つくりを行いました。講師のあまさか様の指導のもと、絵コンテ作りからスタートし、「葉っぱ一枚でも絵本になるよ」という講師のアドバイスを受け、皆さん熱心に取り組んでいました。

2日の分科会Ⅲでは、発表に向けた最終の作品づくりに入りました。前日からの作業が本格的にになり、全員の参加者が分科会Ⅲの開始時刻前から会場にきて作業している姿が見られました。(よいよ)発表会では、ニューヨークなどで活躍されているジャズピアニストの加茂紀子様が発表作品の内容に合わせ、即興でBGMを演奏してくださいました。参加者は緊張の中、講師より受け止めている姿が大変印象的でした。



「なし」というルールが伝えられ、自分の作品を自分の言葉で、自分の声で朗読する、という発表で、会場にはピアノの音発表者の声だけが響き、感動的な時間が流れ、多くの涙が会場にありました。

最後になりますが、参加してくださった生徒、保護者、教員、道高P連本部役員の皆様、そしてご協力いただいた多くの方々への感謝の気持ちを込めて道南支部の報告とさせていただきました。ありがとうございました。



# 平成26年度「高橋

今年度の釧路支部主導による「高校生と語るつどい」は、8月8日(金)～9日(土)にかけて、釧路湖陵高校を当番校としてネイパール厚岸で実施しました。

この事業は、高校生と保護者・教職員などの大人が、宿泊等と共にし協働する中で、より相互理解を深めることが、地域社会の中で高校生が意欲的に活動し、健やかに育つ環境づくりを目指すこと等を目的として、毎年、全道の2～3支部で開催しているものです。今年は釧路支部と道南支部が同日程で開催し、釧路会場には、管内14校から生徒・保護者・教職員総勢90名の参加がありました。

初日は開会式に引き続

き、釧路湿原野生生物保護センター内「猛禽類医学研究所」所長の獣医師齊藤慶輔先生に「野生の猛禽を診る」という題で講演をしていただきました。齊藤先生には昨年度の道高P連全道大会釧路大会でもPTA対象の講演をお願いしましたが、今回は主に高校生に対し、自然保護とは何をすべきかについて、野生動物との共生の難しさの具体例を

見抜く事が大切だとお話しがありました。その後、軽く身体を動かしながらのアイスブレイクを行い、「グループ7～8名（生徒5、保護者1、教職員1）程度のグループ分けをして、分科会Iに臨みました。

分科会Iのテーマは次の二つを設定しました。一つは「鉄路管内を全国に宣伝するためにはどのようにすればよいか」です。齊藤先生の講演を受け、それぞれのグループ内で自分の地元の良い所を挙げ合いながら、多くの人が訪れる鉄路管内にするための宣伝内容・方法等について話し合いました。二つ目は「中学



生がスマートフォンを持つことについて」です。SNによるいじめ問題等が深刻化する状況で、スマートフォンを持ちたがる中学生にどのようなアドバイスを送るか、大人と高校生それぞれの視点・立場から意見を出し合いました。

だいぶ打ち解けた中での夕食・交歓会では、各校行事や特色ある教育活動などをについて紹介し合いました。事前に要領は定めますが、したがって、各校ともユーモアあふれる紹介ぶりで、とても楽しい交歓会となりま

た。テーマは「高校生の将来の夢と大人達が高校生の夢を語った」です。きっかけと人生の先輩である大人達の夢と大人達が高校生の夢を語った。自分がどのような高校生になりたいか高校生達の将来の夢やどんな大人になりたいか高校生達も、普段あまり聞くことのない保護者や先生方の経験談や、同世代の高校生の悩みや将来の夢を聞くに付けて積極的に意見を述べるようになり、あつという間に時間が過ぎていきました。グループで何か結論づける分科会ではありませんでしたが、その後の

写真のスライドショーの設備があり、たき火を中心、初日の様子を撮りました。各グループが作成した写真を眺めながら、交流を深める姿がそこそこで見られました。

が、あればぜひまた参加したい。」という意見が多く、大人達からも「我が子とともに世代の子の意見が聞けて良い刺激になった。高校生が将来の夢や親への素直な感謝の気持ちをストレートに表現してくれたことに感動した。」などの声が寄せられました。

# 釧路支部

# 「夢」を語ろう！ 世代を超えて

全体会では各グループの代表者が自分達の話し合いの内容を発表しました。



# 第64回 全国高等学校PTA連合会大会 福井大会

## 「教育と考福」～未来に引き継ぐ 知と恵み～



● 基調講演は、「尾木ママ」

● 開会式 第64回全国高等学校PTA連合会大会が、8月21日(木)～22日(金)の2日間、福井県サンドーム福井を主会場に県内7会場で開催されました。メインテーマ「教育と幸福」サブテーマ「未来に引き継ぐ知と恵み」を掲げ全国から約1万人の参加者が参加し盛大に開催されました。

8月21日(木)の開会式前に行われたアトラクションでは、各会場で県内の高校生による吹奏楽演奏や郷土芸能演舞、書道パフォーマンスなど感動するアトラクションでした。開会式及び基調講演は、メイン会場であります福井県サンドーム福井で開催されている模様を各会場の大型スクリーン

● 開会式

にライブで放映されました。平澤良典福井大会副実行委員長の開式の辞で本大

会が開幕しました。

開会式では、大会主催者の佐野元彦全国高等学校PTA連合会会長より、四国地方で台風の被害があるにも関わらず参加してくれた方に感謝の気持ちが伝えられました。幕末に活躍した橋本左内の教えるある福井県で開催されることを心から感謝していました。「今求められる考福脳（脳科学者からの提案）」をテーマに基調講演を行いました。講演の中で茂木さんは、幸運は自分の個性を受け入れる場所があり、長所も短所も個性であり、勉強もスポーツも苦手な子どものすぐそばに長所がある。自分で出来なくて、人間関係を大切にして、他の人にやらせる事が出来れば経営者となる事が出来る。個性とは良い所と悪い所があつて個性となる。人間の脳は一生学び続け、自分が出来ない事があるときに学ぶ、チャレンジする事によりドウ・パミングが出て脳が鍛えられる。教育マーケットでは京大・北大等の時代ではない、教育機関エディックの修了証で判定される時代だ、「批判的思考・システム思考・英語」が大事だ。欠点がある事は悪いことではない、出来ない事にチャレンジして自分からドウ・パミングを出す。幸福とは減点法ではない、自分が不幸と思うと幸福にならない、幸福は自分の

こと教育評論家の尾木直樹さんを予定しておりました

が、体調不良により、講演ができなくなりました。尾

木さんからは、お詫びのビ

デオメッセージが流されま

した。尾木さんのピンチヒッターとして、脳科学者の茂木健一郎さんが「今求

められる考福脳（脳科学者からの提案）」をテーマに基調講演を行いました。講

演題に記念講演を行いま

した。講演の中で東さん

は、「福井県は恐竜化石の発

掘が日本一であり、足掛け

25年にわたって発掘調査を

している。調査を行った結

果数種類の恐竜がいたこと

や、ヨーロッパの一部とア

ジアがつながっていた事がわかった。現在も恐竜は、鳥類と言う形で生き続けている、福井県から世界の恐竜を見てみたいと思うと言う内容の講演が行われました。

# 第64回全国高等学校PTA連合会大会

## 福井県大会参加報告書

北海道函館西高等学校PTA副会長 山本潤一



Aの活動について発表がありました。各学校では様々な諸問題があり、その問題を解決するため、各学校PTAで学校に合った活動をしていました。また、北海道を代表して発表した北海道名寄高等学校PTA副会長湯川孝一さんは心から敬意を表したいと思います。

記念講演では、福井県立恐竜博物館特別館長の東洋一さんが「福井の恐竜」アジア、そして世界へ」を演題に記念講演を行いました。講演の中で東さんは、「福井県は恐竜化石の発掘が日本一であり、足掛け25年にわたって発掘調査をしている。調査を行った結果数種類の恐竜がいたことがわかった。現在も恐竜は、鳥類と言う形で生き続けている、福井県から世界の恐竜を見てみたいと思う」と言いました。内容の講演が行われました。

● 記念講演



● 分科会

分科会では、「生徒指導とPTA連携・協働への啓発」をテーマに北海道名寄高等学校PTA副会長湯川孝一さんより「生徒の安全確保への願い」、東京都立片倉高等学校PTA会長松本成仁さんより「心の中の花」、大阪府立四條畷高等学校PTA顧問早矢仕隆男さんより「PTAに出来ない事」、山口県立防府府商工高等学校PTA会長財満健太郎さん「特色ある学校づくりを通しての生徒指導」とそれぞれ日頃のPTT

● まとめ

今回の研修に参加して、全国各地の熱意あるPTAの取り組みを肌で感じる事が出来ました。また、アトラクションを行った福井県内の高校生のパワーと情熱に、これから日本の日本を背負う若者の姿を見たような気がしました。最後に大会を運営、実行された福井県高等学校PTA連合会の関係者及び会員の皆様に心より感謝申し上げ本大会の参加報告といた

● まとめ

今回の研修に参加して、全国各地の熱意あるPTAの取り組みを肌で感じる事が出来ました。また、アトラクションを行った福井県内の高校生のパワーと情熱に、これから日本の日本を背負う若者の姿を見たような気がしました。最後に大会を運営、実行された福井県高等学校PTA連合会の関係者及び会員の皆様に心より感謝申し上げ本大会の参加報告といた



私の全国高P連福井大会行きが決定的となつたのは、4月頃だったでしょう。H26年度のPTA本部役員候補がきまり、各役員が着々と決定しました。その後、本年度の対外行事の参加調整になつた時でした。「皆さん都合がつきませんで、湯川さんにお願いすることになります」ということでした。一般的には、新任教頭先生が一緒に同行して下さるようだつたのですが、今回の本校発表内容について、ある程度精通している必要がある事や質疑応答があるとの事でしたので学校事情をよく知っている先生の方が適任であると考え、わがままだつたかも知れませんが昨

羽田空港、小松空港へと飛行機を乗り継ぎ、その日の夕方には、福井入りしました。その晩、準備をしてきた発表用のパワーポイントのスライドと発表原稿の最終版を終り合わせをしようという事になり先生の部屋へ行きました。この日、私が眠りにつく事が出来たのは、緊張からか翌朝3時を過ぎていたような気がします。

8月21日(木)この日は、私が事例発表を予定している第3分科会に参加する方々を集めた事前説明をする会議と通しのリハーサルの日でした。私は、北海道4地区の発表者のうちの人くらいに思つて参加して

さかのぼる事、約一年前、前任のT教頭先生から「湯川さん!! もしも、誰も行けなかつたら湯川さん行つてくれるかい?」この一言で私の福井行きは、ほぼ決定づけられていた! 様な気がします。実は、この時の私のPTAの中での立場は、監査。本部役員に関わりを持つようになつて、まだ1年も経っていない時の出来事です。日頃から子ども達の為、また、私自身が本校のO.B.であるという事から、出来るだけの事は協力をしたいという思いを常に持つておりました。もしも、行くことになつてもせいぜい数十分からいても百人ちょっとの前で話すくらいいだろうとたかをくくつていきました。まさか、こんな経験をする事になろうと



工高等学校です。ステージ下では、タイムキー・バーがいたのですが見る余裕もなが出来た時には、残り30秒の表示。早口で読み上げるのも、間に合わせ終了のerule。翌日に改善が必要となりました。その晩は歓迎レセプションがユアーズホテルフケイにて開催されました。その中では、地元の食材を生かした素晴らしい料理がふるまわれました。もちろん福井県民のソウルフレード「ソースカツ丼」もありました。

いたのですが、「なんといふことか!!」北海道代表ではあるという事に気付きまして。この福井の旅の中で緊張がMAXになつた瞬間でした。かなり嫌な汗をかいた事を思い出します。そうは言つても明日は本番ですし、これからリハーサルもあると言うことで、隣の東京から発表に来られた松木会長さんと世間話をしました。実は、勤務先は私の業界の取り扱いメーカー様だったり、息子さんの通つている大学が同じだつたりで、仲良くお話を頂ぎ、これまで緊張感が増してきていた中で大きな教訓になりました。ちなみに発表順は、北海道名寄高等学校→東京都立片倉高等学校→大阪府立四條畷高等学校→JR横浜駅前高等学校(以上)です。

私は、「生徒の安全確保への願い（学校と家庭、地域との密接な連携）」というタイトルで事例を発表しました。リハーサルの甲斐あって、準備してきた内容について与えられた時間内でしつかりと発表する事が出来ました。質疑応答では2回ほど答弁を求められる場面がありましたが何とか私の分かる範囲での答弁が出来、無事発表を終了しました。サポートをして頂いた、佐々木さん、大沢先生本当にありがとうございました。その後は、福井から50分ほどのANAクラウンプラザホテル金沢にて、北海道参加者教育懇談会が開催されました。

は、脳科学者の茂木健一郎氏からこんな話が。「勉強のできない人の方が社長にいる」という。勉強の出来ない人は、自分で何でも出来てしまうので、元々、人に頼りがちで、お願いすることが苦手。勉強のできない人の方が、自分の苦手な事を小さい頃から他の人に頼りがちで、やがてもらうのが上手で社長にまでなっている。といったお話をや、「幸せなのは、今の自分が多くの人に会わない」と気がつく事が出来ない。自分の一部だけを見つめていると、幸せでなくなってしまう。など興味深い内容でした。



催されました。2000名くらいが参加した会で、またステージで発表終了後のスピー<sup>チ</sup>をと依頼を受け、感想話を話しました。この会の終盤に差し掛かり、本原稿の依頼をさっそく頂きました。道P連の広報の皆さんには、楽しそうでエネルギー溌々たるシユな方ばかり。これからも機会があればいろいろなところへ出向いて沢山の事を吸収していくたいと思ひます。子ども達の為にも。前任のT教頭先生は、お忍びでちゃんと私の発表を見に来て下さっていたそうです。お世話になりました。しっかりとミッショ<sup>N</sup>ンを完了しましたよ。

# 一般財団法人 北海道高等学校安全互助会

道教委からの事業認可を受け

## 「地域別説明会」など広報活動を展開

～生徒とPTAを対象に、来年度から共済事業を実施～

### 共済事業の認可まで

北海道高等学校安全互助会

が行う共済事業の内容は

共済規程に定められています。

共済規程は共済約款、

事業方法書、算出方法書か

ら成り立ち、これと財団法

人としての本会の組織や運

営について定めた定款によ

り、本会の中核的規程が構

成されています。

このように共済規程は重

要な位置づけを持つことか

ら、本会に設置された評議

員会（高P連の13支部長・教

校長協会会长・副校長・教

頭会会长、及び公立学校事

務長会会长で構成）の決議

を経て定められました。

実際に共済事業を実施す

るには、さらに、北海道教

育委員会から事業の認可を

受けが必要です。本会では9月上旬の評議員会



10月下旬から12月上旬にかけて、全道13支部で広報活動の最重点である地域別説明会が開催され、約100名のPTA会長を含め全道合わせて376名が参加しました。

本部役員と高P連支部長からの挨拶に続いて、旧安

部署である生涯学習局生涯学習課の方々には様々な面で大変お世話になつたところです。

道教委からの事業認可を受けて、10月からは本会設立の趣旨や共済事業の概要について理解を深めてもらい加入促進を図ることを目指し、本格的な広報活動を開始しました。

校長協会の全道各支部での会議や公立学校事務長会等で時間を割いていただき、本部役員や事務局員が出向いて共済事業の概要説明を行いました。

また、北海道シンポジウムや石狩支部研修会などの

会員員と単P会長との懇談も行っています。

### 寄せられた声から

広報活動は皆さんと本会役員等が直接お話しするこ

とができる貴重な機会でした。会費を上げずに共済事

業の対象にPTAの管理下のPTA会員や生徒を加え

たことや、全員が加入しなければ単Pとして加入でき

ないのを改め、希望する者

に加入の道が開けたことに

は評価が寄せられています。

もっとも、全員が加入

することを基本とする考え方

は堅持しなければならない

とするPTA会長の強い

意見もありました。

これら広報活動を通じ9

年ぶりに再開されるPTA

の手による共済事業を皆の手で育てていかねばならないという思いを新たにしました。



### 地域別説明会の質疑から

Q 「学校の管理下」として認められる範囲を詳しく知りたい。

A 本会の共済事業では「学校の管理下」として認められる範囲を詳しく知ります。

した災害については日本スポーツ振興センターの給付の上乗せであり、そ

の際の「学校の管理下」

の範囲は振興センターの定義によるものです。各

学校にある振興センター

の資料を参考にしてください。

Q 同一校に二人の子供が在籍しているPTA会員の共済の取扱いはどう

A 本会の共済事業は子供が加入することにより自動的にPTA（保護者）が共済の対象となるものです。PTAの管理下でのPTA（保護者）の災害の場合に子供が二人在籍していても災害を被つたのは一人であることから当該PTAへの給付は一人分です。

他校に子供が在籍している教職員の会費の扱いはどうなるか。

Q 他校に子供が在籍している教職員の会費の扱いはどうなるか。

A 本会の共済事業は、所属する単Pごとに契約します。教職員が共済の対象となるには、教職員の勤務校に自分の子供が在籍していない場合は会費を支払う必要があり、子供が在籍していく加入した場合は当該教員はPTA会員として共済の対象になります。子供が他校に在籍していく加入した場合は教職員は子供の在籍校ではPTA会員として共済の対象となります。

Q 本会の共済事業は、

加入や請求に必要な諸

様式はダウンロードでき

るようになるのか。

A 本会では年度内にホーモページを立ち上げ、そ

の中で諸様式をダウンロードできるようにしま

教育長からの認可を受けることができました。